

バンダイこどもアンケートレポート Vol.235

「お子さまの映画に関する意識調査」結果

- TOPIC①: 昨年1年間で観た映画*のタイトル数は平均 6.9 本
 そのうち、映画館で観た本数は平均 2.3 本。3 本に 1 本は映画館で観ている結果に
- TOPIC②: 初めて映画館で映画を観た年齢は 4 歳が最多。3 歳～7 歳がボリュームゾーンに
 初めて映画館で観た映画は、「ドラえもん」シリーズという声が多数
- TOPIC③: “映画館と一緒に映画を観ることが多い人”は 26.4%が「母のみ」、18.5%は「父のみ」、
 28.2%が「父母両方」と回答し、親子で観に行くことが多い結果に。
 未就学児、低学年は「父・母」と観に行く傾向にある一方で、学年があがるにつれて
 「兄弟姉妹」や「友達」と観る子どもが増加する傾向に

総括 : バンダイからのコメント

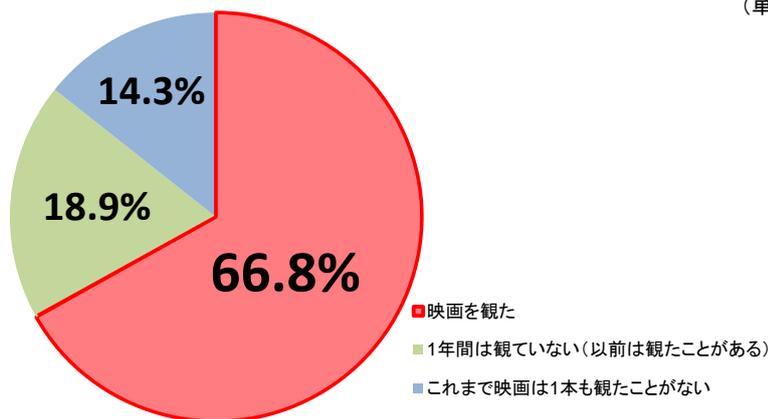
※DVD や TV 放送も含む

株式会社バンダイ(代表取締役社長:川口勝、本社:東京都台東区)は、未就学児(3歳～6歳)と、小学1年生～小学6年生までの子どもを持つ親(子どもと一緒に回答できる方)700人を対象に、「お子さまの映画に関する意識調査」を実施しました。調査結果を以下の通り発表いたします。(実査期間 2017年3月4日(金)～3月6日(日))

TOPIC①: お子さまが昨年1年間で観た映画のタイトル数は平均 6.9 本

そのうち、映画館で観た本数は平均 2.3 本。3 本に 1 本は映画館で観ている結果に

【昨年1年間の映画鑑賞状況】(単一回答 n=700)



【昨年1年間で観た映画のタイトル数】

(単一回答 n=468)※昨年1年で映画を観た子どもベース

映画を観た本数	
平均	6.9本
最大	50本
映画館で映画を観た本数	
平均	2.3本
最大	20本

子どもと映画の関わり方を探るため、過去1年間の映画鑑賞状況について聞いたところ、昨年1年間で映画を1タイトル以上観たお子様は 66.8%であることがわかりました。また、昨年観た映画のタイトル数は平均 6.9 本、そのうち映画館で観た本数は平均 2.3 本という結果となりました。3 本に 1 本のペースで、映画館で映画を観ていることが読み取れます。(学齢別は参考資料をご参照)

**TOPIC②： 初めて映画館で映画を観た年齢は4歳が最多。3歳～7歳がボリュームゾーンに
初めて映画館で観た映画は、「ドラえもん」シリーズという声が多数**

お子さまが初めて映画館で映画を観た年齢について聞いたところ、4歳(17.5%)が最も多く、次いで3歳(16.2%)、5歳(14.8%)という結果になりました。初めて映画館で観た映画作品について聞いてみると、年齢を問わず「ドラえもん」シリーズという声が最も多くあがり、世代を超えて長く愛され続けていることがうかがえます。また、2016年の「キャラクターに関する意識調査」(バンダイ調査)で「好きなキャラクター」として上位にランクインした「それいけ!アンパンマン」や「プリキュアシリーズ」などの映画をあげる方も多く、キャラクター人気は映画作品の人気にも直結していることがわかりました。

【初めて映画館で映画を観た年齢】

(単一回答 n=600)

初めて映画を観た年齢 TOP5		
1位	4歳	17.5%
2位	3歳	16.2%
3位	5歳	14.8%
4位	6歳(未就学)	13.5%
5位	小学1年生	11.2%

※これまでに映画を観たことがある子どもベース

【初めて映画館で観た映画】

(単一回答 n=568)

初めて観た映画 TOP5		
1位	ドラえもんシリーズ	109人
2位	プリキュアシリーズ	75人
3位	ポケットモンスターシリーズ	64人
4位	それいけ!アンパンマンシリーズ	57人
5位	妖怪ウォッチシリーズ	43人

※これまでに映画館で映画を観たことがある子どもベース

【初めて映画館で映画を観た年齢】(単一回答 n=600)



※これまでに映画を観たことがある子どもベース

**TOPIC③: “映画館で一緒に映画を観ることが多い人”は 26.4%が「母のみ」、18.5%は「父のみ」、28.2%が「父母両方」と回答し、親子で観に行くことが多い結果に。
未就学児、低学年は「父・母」と観に行く傾向にある一方で、学年があがるにつれて「兄弟姉妹」や「友達」と観る子どもが増加する傾向に**

映画館で映画を観る時、誰と一緒に観ることが多いかについてお子さまに聞いたところ、26.4%が「母のみ」、18.5%が「父のみ」と回答。「父母両方」という回答は 28.2%と僅差でトップになり、全体的に親子で観に行くことが多い結果となりました。学年別に見てみると、3歳～6歳(未就学児)や小学1～2年生は「父あるいは母」と観に行く割合が大きい一方で、小学3～4年生や小学5～6年生(高学年)になると、「兄弟姉妹のみ」、「友人のみ」との回答が増加。学年があがるにつれて、「兄弟姉妹」や「友人」と観る機会が多くなる傾向にあることが読み取れます。

【映画館で映画と一緒に観ることが多い人・構成比】(単一回答 n=568)



※これまでに映画館で映画を観たことがある子どもベース

【バンダイからのコメント】

長期休みに合わせて毎年多くの映画が公開されますが、今回はゴールデンウィークのタイミングに合わせ、子どもと映画の関わり方を探るため「お子さまの映画に関する意識調査」を行いました。

昨年1年間で観た映画(DVDやTV放送も含む)の平均タイトルは6.9本、そのうち映画館で観た映画は平均2.3本と、3タイトルに1本のペースで、映画館で映画を観ていることがわかりました。ゴールデンウィークや夏休み、冬休みなど長期休みのタイミングでレクリエーションのひとつとして家族で映画を観に行く子どもたちも多いのではないのでしょうか。

親が子どもたちにみせたい映画を聞いたところ、「ドラえもん」シリーズや「ディズニー映画」、「ジブリ映画」などがあがりました。理由としては、「親子2世代で楽しめるから」、「心を育む要素を持っているから」との声が多くあげられています。また、「ドラえもん」シリーズは、親自身が「子どもの頃に観た映画」という声が多くあがるとともに、子どもたちが初めて観た映画としても選ばれており、自分が懐かしさをもって再び観たいと感じる映画を、親子で観て楽しむ様子が想像できる結果となりました。

■調査概要

【調査目的】子どもの映画に関する意識・実態を探る

【調査地域】全国

【対象者条件】未就学児(3歳～6歳)と、小学1年生から小学6年生の子どもを持つ親

※子どもと一緒に回答できる方

【調査手法】インターネット調査(協力:株式会社クロス・マーケティング)

【実査期間】2017年3月4日(土)～3月6日(月)

【サンプル数】700人

【構成】

	未就学児 (3歳～6歳)	小学 1年生	小学 2年生	小学 3年生	小学 4年生	小学 5年生	小学 6年生
男子	50人	50人	50人	50人	50人	50人	50人
女子	50人	50人	50人	50人	50人	50人	50人

参考資料

【昨年1年間で観た映画のタイトル数・学齢別】(単一回答 n=468)

映画を観た本数	全体	未就学児 (3～6歳)	小学1年生	小学2年生	小学3年生	小学4年生	小学5年生	小学6年生
平均	6.9本	6.2本	7.0本	6.2本	6.1本	8.0本	7.1本	7.4本
最大	50本	30本	40本	30本	50本	50本	30本	30本
映画館で映画を観た本数	全体	未就学児 (3～6歳)	小学1年生	小学2年生	小学3年生	小学4年生	小学5年生	小学6年生
平均	2.3本	1.7本	2.9本	2.3本	2.2本	1.9本	2.2本	2.4本
最大	20本	10本	20本	12本	15本	10本	20本	10本

こどもアンケートホームページ: <http://www.bandai.co.jp/kodomo/>

バンダイホームページ: <http://www.bandai.co.jp/>